

共に生きる スポーツとアーツの可能性

“SPORTS, ARTS & INCLUSION”

スポーツやアーツを障がい者と共に楽しむことのできる包摂社会の実現に向けて、3年後の東京パラリンピック大会は、いかなる契機となり得るでしょうか。——スポーツとアーツはどちらも障がい者の社会参画を促す活動として有意義ですが、その意味合いや性質には類似点と相違点があります。それぞれの特徴や欧州と日本の状況を把握し、その間で比較しつつ複眼的に議論することで、より意義深く持続性のあるパラリンピック・レガシーづくりにつなげていきます。

日時 | 2017年9月29日(金) 13時30分～17時30分(受付開始13:00)

会場 | 東京藝術大学上野キャンパス 第6ホール(音楽学部4号館) 東京都台東区上野公園12-8

言語 | 日本語、英語、日本手話(日英同時通訳および手話通訳付き)

定員 | 200名

参加費 | 無料

主催 | 日本財団パラリンピックサポートセンター 東京藝術大学 COI拠点 ベルリン日独センター

協力 | ナント市国際会議センター「シテ・デ・コングレ」 アーツ・イノベーション・プロジェクト(AIP)

後援 | スポーツ庁 文化庁 台東区 厚生労働省

〈プログラム〉

13:30 開会あいさつ 高橋陽子(ベルリン日独センター評議員/
公益社団法人日本フィランソロピー協会理事長)

13:35 基調講演

「スポーツ・アーツ・サイエンス」

松下 功(東京藝術大学副学長)

13:55 第1セッション スポーツ

「障がい者のインクルージョンにおいて
競技スポーツは最後の障壁の一つとなっているのか」
オットー・シャンツ(独・コブレンツ＝ランダオ大学教授)

「日本社会における障がい者スポーツのあり方」
藤田 紀昭(日本福祉大学スポーツ科学部学部長)

14:45 — 休憩 —

15:05 ミニ・パフォーマンス

R. シュトラウス 「鳴り響くハート」

G. ロッシーニ 「饗宴」

Soprano 橋本 夏季
Piano 高木 由雅

15:25 第2セッション アーツ

「アートが持つもう一つの可能性

：都市における癒しの実践とメンタルケア」

ラシュエル・ボーシェ(仏・ナント市国際会議センター

「シテ・デ・コングレ」理事長)

「未来の多様性を開拓する

～アール・ブリュットという視点から～」

小林 瑞恵(社会福祉法人愛成会副理事長)

「新しい評価軸を創る

—芸術と福祉のコラボレーションを通して—

沼田 里衣(大阪市立大学都市研究プラザ特任准教授)

16:25 第3セッション パネルディスカッション

全講演者

進行：日本財団パラリンピックサポートセンター

理事長 小倉 和夫

17:25 閉会挨拶 小倉 和夫

※スピーカーは都合により予告なく変更となることがあります

.....参加申し込み.....

メールの件名を「9月29日シンポジウム参加申し込み」とし、(1)お名前(2)フリガナ(3)ご所属・役職(4)電話番号を明記して research@parasapo.tokyo宛にメールまたはFax(03-5545-5992)にて9月25日(月)までにお申し込みください。返信を持って受付とします。定員になり次第、締め切らせていただきますことをご了承ください。入退場時の移動および情報保障のサポートをご希望の方は、お申し込みの際にお申し出ください。

連絡先

日本財団パラリンピックサポートセンター パラリンピック研究会 担当(中島・矢島・池田)
〒107-0052 東京都港区赤坂1-3-5 赤坂アビタシオンビル4階 TEL:03-5545-5991(平日9:00-17:00)

登壇者プロフィール (登壇順)



松下 功 (Isao MATSUSHITA)

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、同大学院を修了後、ベルリン芸術大学に学ぶ。現在、東京藝術大学副学長および演奏芸術センター教授、一般社団法人日本作曲家協議会会長、アジア作曲家連盟会長、一般社団法人アーツ・イノベーション・プロジェクト理事長、2020 オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会文化・教育専門委員。アンサンブル東風代表、カメラータ・ナガノ音楽監督兼常任指揮者。



オットー・シャンツ (Otto SCHANTZ)

独コブレンツ＝ランダウ大学教授。専門分野は、オリンピックとパラリンピックムーブメントのイデオロギー、スポーツとダイバーシティ、文化としてのスポーツ、認識学、社会学。2004 年より現職。1999 年に国際オリンピック委員会リサーチカウンシルの創立メンバーとなり、現在は、編集委員としてスポーツや社会をテーマとした数々のジャーナルや書籍に携わる。



藤田 紀昭 (Motoaki FUJITA)

日本福祉大学スポーツ科学部部長。筑波大学大学院体育研究科修了。徳島文理大学専任講師、同志社大学スポーツ健康科学部スポーツ健康学科教授などを経て、現職。研究分野は、体育学、障害者スポーツ論。「地域における障害者スポーツの普及促進に関する有識者会議」座長を務め、現在、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会技術委員会副委員長。



ラシェル・ボーシェ (Rachel BOCHER)

仏ナント市国際会議センター「シテ・コングレ」理事長。仏ナント大学病院の精神科長。全国病院臨床医連合会長。ナント市市議会議員。仏国家功労勲章とレジオン・ドヌール勲章を受章。



小林 瑞恵 (Mizue KOBAYASHI)

社会福祉法人愛成会副理事長。アートディレクター。アール・ブリュット関連の展覧会を数多く手がける。中野区にて障害のある人たちが創作活動を行う場「アトリエ pangaea」を立ち上げる。ヨーロッパ巡回展「Outsider Art from Japan」、日本スイス国交樹立 150 周年記念事業「ART BRUT JAPAN SCHWEIZ」展日本側キュレーター。2016 年東京芸術文化評議会アール・ブリュット検討部会委員。



沼田 里衣 (Rii NUMATA)

学術博士。大阪市立大学都市研究プラザ特任准教授。日本音楽即興学会理事。日本音楽療法学会認定音楽療法士。知的障害者、乳幼児、小学生や高齢者と即興音楽ワークショップや公演活動を行う傍ら、技術や価値観の差異を超えた音楽作りについて研究を行う。2005 年より音遊びの会代表、2014 年よりおとあそび工房主宰。論文に「コミュニティ音楽療法における音楽の芸術的価値と社会的意味」(『日本音楽療法学会誌』第 10 巻第 1 号) 等。



小倉 和夫 (Kazuo OGOURA)

日本財団パラリンピックサポートセンター理事長。東京大学法学部卒。1962 年外務省入省。駐ベトナム・韓国・フランス大使、独立行政法人国際交流基金理事長、東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致委員会評議会事務総長歴任。

東京藝術大学

〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8

交通のご案内

- JR 上野駅 (公園口)・鶯谷駅 (南口)、東京メトロ千代田線根津駅より徒歩 10 分
- 京成線京成上野駅、東京メトロ日比谷線・銀座線上野駅より徒歩 15 分
- 台東区循環バス「東西めぐりん」
- ② 上野駅・上野公園から (東京芸術大学経由) ⇒ ⑤-1 東京芸術大学下車 [30 分間隔]

※駐車場はございませんので、お車での来場はご遠慮ください。

